

## 無から有を

活動の最初の取り組みは、使用済みの切手やカード類が国際協力活動に役立つことを知ったからである。捨てればゴミになるものだが、それを根気よく集めていけば人を助ける道具になる。日本の切手やカードは色も種類も豊富であり、きれいである。世界中のコレクターが購入してくれるのだそうだ。ゴミに愛情をかけることにより世界中の多くの人々の笑顔を創り出している。現在では町内各所にペットボトル製の回収箱が設置され町内の方々の暖かいご協力を得ている。また卒業生たちもその思いを持ち寄って集まってくれる。地域が連携をすると大きな輪となっていく。学校には本来地域のネットワークの場所としての機能があるべきである。お年寄りも子供達もみんなが連れ立って同じ目標に向かって活動をする。そんな活動が目標である。



最初に取り組んだ使用済み切手の活動。1kg幾らでコレクターが購入した代金が資金になる

## 国際協力物資が世界を飛ぶ

日本は物があふれている国である。捨てるのに苦労している。「捨てるための本」が売れる国である。特に学校現場は「年度」と言う名目で、まだ使えるものがたくさん捨てられて行く。その物資を必要としている国に、必要としている人々に使ってもらえるよう贈っている。柔道着は世界中のオリンピックを目指す人々へ、リコーダーは楽器に触れる機会の無い人々へ、絵本は中南米の日系社会の日本語を学ぶ子供達へ、運動靴は破傷風の菌で農地を耕すことのできない人々へ、本は中南米へ移住した日本語に郷愁を持つ方々へと贈られ、世界が笑顔になっている。近年はJICAの行う「地球の笑顔プログラム」への協力によりさらに世界へ輪が広がっている。

## バナナを考える

フィリピンのバナナ農園の農民たちは農業にまみれて生活することで皮膚病にかかっていると聞いた。そして何よりも安い賃金で働かされているので食事すらまともにとれないとも聞いた。そしてその値段の安い農業たっぶりのバナナを食べているのはこの国の国民であるとも聞いた。フィリピンのバナナ農家の栽培に見合った値段で買い上げるフェアトレードのバナナがあると聞き、さらに無農薬栽培だと聞き、販売することを活動に加えた。現在毎月1回、職員室目がけて生徒のバナナ販売隊が出動する。予約を取ってお金をいただき、自分たち手作りのバナナチケットを渡し、予約の荷が到着するとチケットと交換する活動である。これまでに扱ったバナナはもうじき1トンを越える。町の催事でも店を開き、安全な食品を食べることの大切さや、フィリピンの農民の苦しみを訴えるチラシを配りながら販売した。現在は地域の方々へのバナナチケットの予約販売も広がりを見せ、お菓子作りのレパートリーにもバナナケーキが登場する日が遠くなくやってくるだろう。



ネグロス島支援で、町内の催事で無農薬フェアトレード・バナナを販売

## 献血呼びかけ

世界の人々の役に立ちたいという思いは当然日本で苦しんでいる人々にも向けられている。青少年赤十字に加盟していることもあり、毎年2回一番献血者の減る暑い7月の学校祭の時と寒い2月の卒業式前日に移動採血車を校内に招き生徒に献血の呼びかけをしている。そのためか本校生徒の献血カードの所有率は他校に比べても高いものになっている。献血カードを高々と誇らしげに他の生徒に見せている生徒、自分のカードと他人のカードを見比べている姿は、この若いエネルギーがこれからのこの国を支えてくれると実感させてくれるのである。

## そのほか

校内外のネットワークの確立はもとより、大人社会との接点や協力活動、催事などの積極的な参加・協力によって、地域に確実に理解と協力の輪は広がっている。高校生の活動発表はもちろん、最近では小学校や中学校に招かれクラブ員が活動の紹介や苦しい世界の話をする機会も増えて来ている。地域にその名が知られ、さらに協力の輪が広がっている。これらの活動を通して高校生は心を成長させ、他を思いやる心を育てて卒業していく。そして社会に出てからが本来のボランティア活動となる。だれにやらされるのではなく、自分から進んで行動を起こすことのできる人間として。

## 生徒の心のメッセージ

世界の笑顔の為に自分も笑顔になる。世界が笑顔になれば私も笑顔になれる。人は一人では心から喜べない、人は自分だけよければでは心から喜ぶ事ができない。私たち当別高校国際協力クラブは、世界中の笑顔の為に頑張ろうと活動しています。そして「ありがとう!」の言葉をいただいた時、心から喜ぶことができるのです。これからも世界の人々の苦しみの顔が喜びの顔にかわるよう活動を続けます。後輩たちに笑顔のバトンを託しながら。